

デイリー・ジーザス・ニュース #194

イエスは弟子としての重要な問題について語る

イエスは警告します。「悔い改めなさい。さもなければ滅びます！」

ルカ13章1-9節

1 そのとき、ピラトがガリラヤ人の血をイエスへの供え物に混ぜたという知らせを、ある人々がそこにいたので、2 イエスは答えて言われた。

「このガリラヤ人たちがこのような死を遂げたからといって、彼らが他のすべてのガリラヤ人よりも罪深かったとでも言うのですか。いいえ、そうではありません。しかし、あなたがた全員が悔い改めを生活様式として実践しないなら、あなたがたも必ず滅びるでしょう。」

4 あるいは、シロアムの塔が倒れて死んだ十八人は、エルサレムに住んでいた他のすべての罪人よりも罪深かったと思いますか。5 いいえ、そうではありません。しかし、あなたがた全員が悔い改めを生活習慣として実践しないなら、あなたがたも必ず滅びるでしょう。」

6 そこでイエスはこのたとえ話をされた。(実を結ばないいちじくの木)

「ある人が自分のぶどう園にいちじくの木を植えて育てていたが、実を探しに行ったが、何も見つからなかった。」

7そこで彼はぶどう園の番人に言った。『ごらんなさい。このいちじくの木に実がなるかどうか、もう三年も探しに来たのに、一粒も見つからない。切り倒しなさい。どうして土を食いつぶしてしまおうか。』

8 「『ご主人様』と男は答えました。『あと1年間そのままにしておいてください。私が周りを掘って肥料を与えます。9 「来年実がなったらいい！なさければ切りなさい」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ユダヤのどこかで何千人もの群衆に語りかける
タイムライン	10月または11月(33、34か月目)
イエスの生涯の文脈	第六段階: イエスの後期ユダヤ教宣教
	D. イエスはユダヤで宣教し、弟子たちを訓練する

デイリー・ジーザス・ニュース #194

	3. イエスは弟子としての重要な問題について語る
タイトル	ix イエスは警告する：「悔い改めよ、さもなければ滅びる」

コメント：

今日の朗読は、聖書本文における残念な章分けの一例です。12章の冒頭の言葉は、イエスとのこの会話が、その直前の出来事、つまり11章の終わりにある「時のしるし」に注意を払うようにというイエスの警告と同時に起こったことを明確に示しています。イエスは、信仰によって「イエスに従う」ためには、人々が心と精神を変えなければならないと警告し続けていたのです。

イエスの時代に広く信じられていた信仰の一つは、神は人々と神との関係性に応じて、物質的な祝福や呪いを即座に与えるというものでした。物質的な豊かさを享受する者は、特に義にかなっており、神に愛されていると考えられていました。逆に、貧しい者、苦難や試練を経験した者は、特に不従順で、呪われ、神に不興を買っていると考えられていました。

そのため、人々はピラトによって殺された人々や、エルサレムの塔の崩壊によって殺された人々は、そのような恐ろしい死を遂げなかった他の人々よりも罪深い、特に邪悪な人々であると想定しました。

イエスは全く反対でした。イエスはすべての人々に、悔い改める必要がある、つまり神の本質とすべての人間の罪深さについての考え方を完全に変える必要があると告げました。イエスが自分の主張を明確にするために、同じ言葉を二度繰り返したことに注目してください。 **「あなたがた皆、悔い改めを生活様式として実践しないなら、あなたがたも必ず滅びます。」**

イエスは、人の正しさや罪深さを、その人の物理的な状況で判断するのではなく、イエスの人生と教え、つまり「時のしるし」によってすべてを評価するよう、私たち全員に命じました。誰もがそれぞれの意見を持っています。最終的には、イエスの意見だけが重要です。イエスは、私たちの基準ではなく、ご自身の基準に従って生きてきたすべての人を裁かれる方です。ですから、私たちは皆、イエスに倣って悔い改める必要があります。早ければ早いほど良いのです。

では、イエスは私たちに何を求めているのでしょうか。この短いたとえ話は、神が求めているのは「実」だと説明しています。ブドウやオリーブのような物質的な実ではなく、私たちの内に生き、成長する神自身の本質と性格です。これがイエスが弟子に求める目標です。私たち一人ひとりを神に似せて変え、神に似た者となることです。だからこそ、私たちはすべてを神に合わせる必要があるのです。悔い改めなしに実を結ぶことはできません。

イエスはこのたとえ話を、目の前の聴衆に向けて語りかけました。たとえ話の中の男が3年間、いちじくの木に実を結ばないか探していたことに注目してください。イエスはここで「実」を、イスラエルの民の中で形作られたご自身の姿と人格という、より広い意味で捉えておられました。イエスは、聖書で繰り返し用いられるいちじくの木という象徴をイスラエルの民のために用いました。このたとえ話を語った当時、イエス

デイリー・ジーザス・ニュース #194

は宣教活動を始めてからちょうど3年が経っていました。しかし、イスラエルの民全体がイエスをメシアとして受け入れ、信じていませんでした。「時のしるし」を無視したため、実を結んでいなかったのです。

たとえ話のように、神は彼らに悔い改めるための「もう一年」を与えていました。6ヶ月後、枝の主日にイエスはイスラエルの民にメシアとして正式に姿を現すはずでした。彼らはイエスを拒絶し、十字架につけましたが、それでも神は彼らに悔い改める最後の機会（「もう一年」）を与えていたのです。なんと恵み深いことでしょう。

ユダヤ民族が悔い改めず、イエスをメシアとして信じなかったため、神はユダヤ民族を「木を切り倒し」、御自分が彼らに与えた土地から民族として追放しました。神の民は捕囚となり、世界中に散らされました。イエスのこの警告は、全く現実的で深刻なものでした。イエスの警告はすべて真剣です。

彼がそう言うなら、私たちは耳を傾けて悔い改める必要があります。

応用：

このたとえ話は、イエスの宣教活動中のイスラエル国家に直接当てはまるだけでなく、ライフスタイルとして個人の悔い改めを実践することにも触れています。

神は常に私たちの心の固いところを「掘り起こして」おられます。試練、困難、鍛錬、そしてあらゆる苦しみを用いて、私たちが神に同意するまで、私たちの注意を引いて神を求めさせようとされます。神は私たちの中に「実」を結ばせるために、どんなことでもされます。悔い改めは成長の鍵です。神に従うためには、悔い改めこそが私たちの生き方でなければなりません。

イエスは最近、人生のどの部分を「掘り起こして」いますか？あなたの注意を引きましたか？あなたが悔い改めを受け入れる準備ができるまで、イエスは手を緩めません。

悔い改めのライフスタイルにおいて、次にあなたが踏むべき具体的なステップは何でしょうか。今日、それをどのように実践しますか。